



議会だより

第 210 号

令和 7 年
4 月 10 日
発行



岩手県岩泉町議会

いわいずみ

本号はダブル表紙です。

「特集 議会が暮らしに与えた影響は～4年間の軌跡～」は、裏表紙からご覧ください。



P 2 持続可能なまちづくりの創造

P 4 防災マップ更新・Web 版も
～災害に強い安心の町へ～

P 10 町の考えを問う
(10 議員が一般質問)

シリーズ キラッと光る人 ⑩

地域おこし協力隊の鎌田優さん、和美さんご夫婦。岩泉町で出会い結婚され、光ちゃん（1歳）と3人で暮らしています。ご夫婦はそれぞれで、特産品の6次化に取り組んでいます。

岩泉町未来づくりプランは、本町のまちづくりを進めるうえで、最も基本となる最上位計画です。

まちの将来像「希望の大地から未来の花咲くいわいずみ」を着実に実現していくため、基本目標に掲げる3つの花。「生きがいの花」「暮らしの花」「なりわいの花」ごとに、7年度の主な事業をお知らせします。

3つの花づくり ～7年度の主な事業～

地域資源を活用し 新しい価値が咲き誇る なりわいの花づくり

◆龍泉洞の魅力発信



デジタルコンテンツ（VRなど）を活用した龍泉洞企画 198万円

◆農作物の収益の向上



農作物の鳥獣被害対策で電気牧柵の更新も対象に拡充 907万円

◆地域資源を活用した雇用創出



ローカル10000プロジェクトを活用した創業、新規事業の支援 1315万円【関連7ページ】

安全安心で 豊かな生活が咲き誇る 暮らしの花づくり

◆生活関連道路網の整備



生活道の整備補助 1800万円

◆良好な住宅環境の整備



住宅リフォーム補助金を空き家対策含め拡充 1810万円【関連6ページ】

◆身近で重要な町道の整備



鼠入川線の舗装工事 5000万円

誰もが健康で学び 幸せな生涯が咲き誇る 生きがいの花づくり

◆楽しく集える公園の整備



レクリエーション広場に遊具を整備 1374万円【関連7ページ】

◆高齢者の社会参加を促進



加齢性難聴者の補聴器購入へ助成 84万円

◆地域ぐるみで子どもたちを育む



学校と地域をつなぐ地域連携コーディネーターを配置 203万円



子どもたちに向けてわたしたちが創る未来（畠山鈴央ちゃん・1歳）

令和7年第1回定例会は、2月6日から3月7日までの30日間の会期で開きました。

初日に行われた施政方針演述（※）で中居町長は「公約である『持続可能なまちづくりの創造』を目指して各般の施策を積極的に進めていく」と述べました。

2月27日と28日には、一般質問が行われ10人の議員が登壇（質問の内容は10ページから15ページまで）。

町長から提案のあった7年度当初予算を含む議案31件、議員提出議案1件を全会一致で可決しました。

持続可能なまちづくりの創造

（要約）町では、自然災害や物価・エネルギー価格の高騰、農産物被害や海産物の不漁など可能な限りの支援に取り組んできた。

7年度も「持続可能なまちづくりの創造」を目指して各種施策を積極的に進めていく。厳しさを増す地域経済の状況を改善するため、町内で新たな事業に挑戦する事業者や起業希望者を応援し地域の潜在的な力を引き出し、地域社会・経済の活性化を推進する。ふるさと納税など自

主財源の確保に注力。事務事業の改善・改革に取り組み、社会経済の変化に適応した財政運営、多様化する課題に対応できるしなやかな組織体制の構築に努める。

各種手数料・使用料、補助金などの見直しを進め、サービスの質的向上と健全な行政運営の両立を目指す。町議会・町民の皆さまと心を一つにし知恵を出し合い、一つ一つの課題に真摯に向き合い、怯むことなく果敢に挑戦していく。

（※）町長が町政運営の基本方針や主な施策を示すもの。当初予算を提案する町議会定例会で表明される。



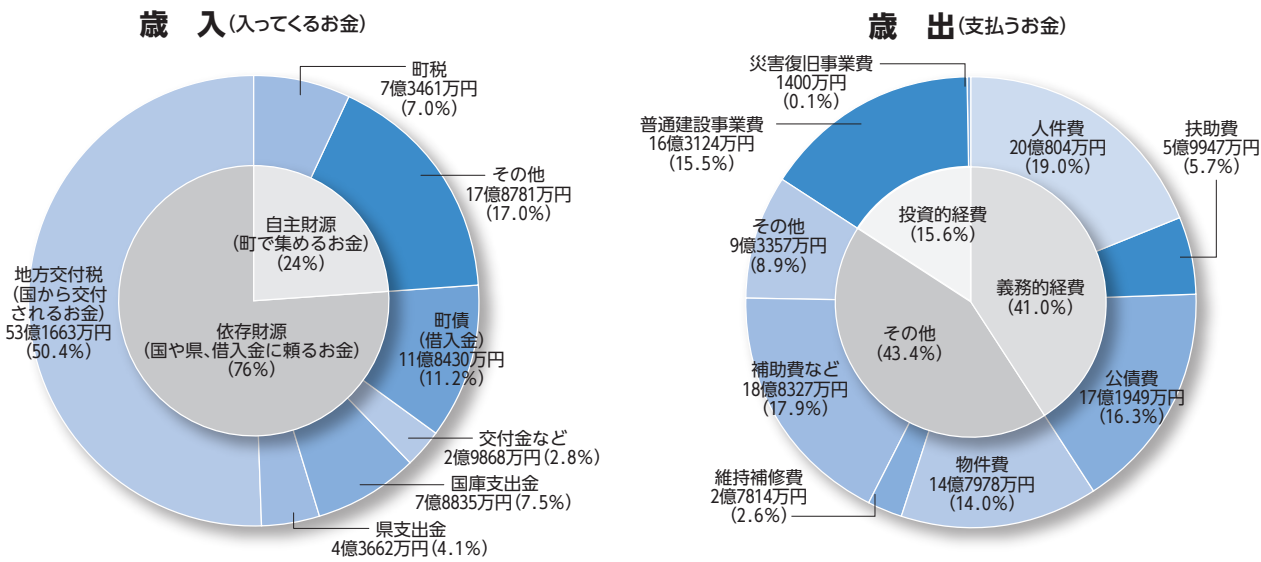
施政方針演述をする
中居健一町長



町長施政方針

知恵を出し合い課題に挑戦 中居町長の施政方針

一般会計 105 億 4700 万円の内訳



防災マップ更新・Web版も
～災害に強い安心の町へ～

令和7年度の新規事業は、自然災害から命を守り安心できる地域社会を実現するため、「岩泉町防災マップ」を最新情報に更新。Web版ハザードマップも構築します。5年度に新たに津波浸水想定区域に含まれた中島、岸、卒郡地区などに避難誘導看板を設置予定です。

一般会計の当初予算額 105億4700万円

7年度一般会計と5特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の総額は、144億4989万円。うち一般会計は105億4700万円、前年度から7億4700万円の増(7.6%)です。

増額の主な要因は、小川地区複合施設の整備、ふれあい交流福祉館と高齢者福祉センターの改修などの工事費。防災マップ作成、ウェブ版のハザードマップの構築にかかる委託料。来年度予定されている町長、町議会議員選挙に伴う選挙費などです。

さらに、空き家対策

を強化するため実態調査を実施。空き家の取得や解体の補助が新設され、空き家の利活用や適正な管理を推進します。



当初予算の概要

◆財政用語

【地方交付税】町の財政力に応じて国から交付されるお金

【国庫・県支出金】町が行う事業に対して国・県から交付されるお金

【町債】事業の財源に充てるため国などから借りたお金

【人件費】職員の給与や医療費助成

【公債費】事業を行うときに借りたお金の返済金

【物件費】旅費や消耗品費

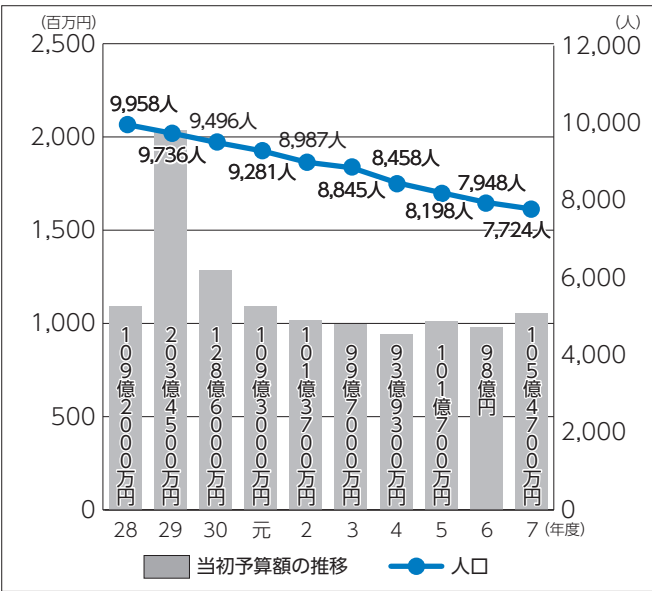
【維持補修費】公共施設の維持・管理費

【補助費】補助金や交付金など

【普通建設事業費】道路や学校などの建設費

【災害復旧事業費】自然災害などで壊れた公共施設を復旧する費用

一般会計当初予算と人口の推移



7年度 各会計の当初予算額

会 計 名			予算額	伸び率
一 般 会 計			105億4700万円	7.6%
特 別 会 計	国民健康保険	事 業 勘 定	10億5800万円	△0.4%
		診療施設勘定	3820万円	△2.3%
	後 期 高 齢 者 医 療		1億4830万円	9.0%
	介 護 保 険	事 業 勘 定	14億4800万円	△2.9%
		サービス事業勘定	1230万円	5.1%
	観 光 事 業		1億7510万円	△6.4%
	大 川 財 産 区		480万円	9.1%
合 計			134億3170万円	5.5%
水道事業（公営企業会計）			6億9433万円	△4.6%
下水道事業（公営企業会計）			3億2386万円	△23.4%

請願

1件を不採択

3月定例会に提出された請願は1件でした。産業常任委員会に付託し、審査の結果、不採択と決定しました。

◆請願の名称

小本字小成地内、土側溝の大雨対策に関する請願

請願人

小成部落会

会長 三浦 孝男

*紹介議員

千葉泰彦議員

*付託先

産業常任委員会

*請願事項

大雨の降水量は、

年々増加している。小

成部落地内にはいまだ

に土側溝のまま放置さ

れている箇所がある。

大雨でも流路が確保で

きるよう、U字溝への

改良施行を求める。

*審査の結果

不採択



避難誘導看板を設置
(中島・岸・卒郡地区など) 775万円



防火水槽の建設整備 1109万円
(大牛内地区)

問 設置場所に砂利が敷いてある。路盤

答 こども園の保護者69人にアンケートを実施。人気順に複合遊具とブランコ、さらに幼児用にリンクを整備予定である。

問 レクリエーション広場に整備する遊具の選定は、保育士や子育て中の人などに相談やアンケート調査したのか。

公園 レク広場の遊具の選定は園の保護者にアンケート



はんだし広場（うれいら通り）で遊ぶ子どもたち

ますの声 遊具が楽しみ早く遊びたい

レクリエーション広場で鬼ごっこやサッカー、野球などして遊んで楽しかったけど、遊具があれば良いと思っていた。遊具ができるのが楽しみだし、早く遊びたいです。

答 子どもたちの安全を考慮し、砂利を撤去のうえ砂を敷く予定である。

はどのようにするのか。



補助の拡充で空き家の有効活用を促進

空き家対策を強化 取得・解体に補助

問 今後、増額する考えはないか。

答 本年度は20世帯、23人に支給。在宅で子育てする世帯に児童1人につき月額1万円を支援するもの。

問 子育て在宅育児支援金の受給者数は。

答 本年度は20世帯、23人に支給。在宅で子育てする世帯に児童1人につき月額1万円を支援するもの。



左：下道久美さん
あかりちゃん
(小川・36歳・0歳)

右：中坪結衣さん
徠七ちゃん
(小川・24歳・0歳)

答 この支援金は県内で一番拡充。当面は増額予定はない。

ますの声 在宅支援金助かります

町の子育て支援は他よりも充実。在宅育児支援金も助かっています。町内に子どもと自由に遊べるスペースがもっとあれば、さらに子育てしやすい町になると思います。

問 地域経済循環創造事業（※）は、既存の事業者が新たに別の事業を始める場合も申請可能か。

答 対象になるが、事前に総務省のほうに協議が必要で、認められれば申請が可能となる。

問 現在、予定している事業者はいるか。

答 2事業者を予定。1件目は、ジビエ事業で、町内で捕れたシカ肉を加工する施設を建てる。2件目はドライフラワー事業で、新たに施設を整備する予定である。

創 業 既存事業者が行う場合は 事前協議で承認後申請可

おしえてぴーちゃん

（※）地域経済循環創造事業って何？

地域経済循環創造事業（ローカル 10,000 プロジェクト）は、地域の人材・資源・資金を活用した新たなビジネスを立ち上げようとする民間事業者を支援する制度。事業者、国、地方が一体となり、地域が将来にわたって富を生み出していく仕組みづくりにつなげます。



畠山昌典委員

岩泉町の課題を伝えていく。政策推進会議など協議を常日頃やり、職員と共に頑張ろうと、私は思いを伝えていく。

問 町民も関心がある。予算上、早いもの勝ちとなるのか。

答 予算の範囲内で申請順に審査をしていく。

問 ケースバイケースとなるが、町民に対する補助であり主な生活の本拠地でなければ対象外となる。

答 情報発信は町の課題と捉えている。ホームページとラインを併せて研究していく。

問 情報は、文字だけでなく絵や写真を活用し、即理解してもらえるようわかりやすい工夫できないか。

答 そのように改善していきたい。

問 住宅関連の各種情報は、ラインなどで広く伝わるようにできないか。

答 住宅関連の各種情報は、ラインなどで広く伝わるようにできないか。

問 古い公民館は解体補助の対象か。

答 基本的には戸建て住宅を考慮しており、公民館は対象外となる。

問 空き地・空き家バンク業務を民間委託する考えはないか。

答 登録件数が増えた場合に検討する。

住宅 帰省用の住宅は対象か 主な生活の本拠地のみ

新年度予算審査特別委員会（坂本昇委員長）は3月4日から7日まで4日間の日程で開きました。

審査の中では、空き家の取得・解体に対する新たな補助制度「住まいるづくり事業」やレクリエーション広場の遊具整備などへの質疑がありました。

ここでは、いくつかの内容を要約してお伝えします。

ますの声

水回りに傷み 時期みて検討

中村正さん
(尼額・75歳)

自宅も築15年以上で、厨房や浴室など水回り部分に傷みが出ており、時期をみて検討したいです。

増える空き家。利活用や解体費用補助など町民に周知してほしいです。



千葉泰彦委員

総括質疑とは、審査する案件全般に対して行うもの。一般会計予算案に2議員が総括質疑を行いました。内容を要約してお伝えします。

一般会計 総括質疑

問 役場の業務は劇的に増える一方で、中途退職者や長期の休職者があり、採用も不調。より厳しい労働状況で組織運営上、危険水域である。町長自ら、職員への声かけが必要ではないか。

町長 年始に職員と一堂に会し、私の思いと

町長 燃油高騰や物価上昇、人口減少、少子高齢化と多くの課題があるが、持続可能なまちづくりに向けて頑張ってきた。

新年度の予算は、一つ一つ種をまくような、そして次の時代にそれが育つような予算編成としている。

4月リニューアルオープン ふれあいランド岩泉



民間活力を生かした新たな観光拠点が誕生

条例補正予算等審査特別委員会（三田地久志委員長）は2月25日と26日開き、付託された条例6件、補正予算8件、指定管理に関する議案2件を審査しました。

平成28年の台風第10号で被災後、長年にわたり検討されてきたふれあいランド岩泉の再整備。民間活力を生かし4月にリニューアルオープンすることから、使用料金などに質疑が集中しました。

ここでは、特別委員会の審査の中からいくつかの内容を要約してお伝えします。

光 町民向け料金は 観 特別料金を設定

問 ふれあいランド岩泉の使用料は、曜日によって変更するなど臨機応変な価格設定ができるか。

答 条例で定める最高額の幅の中で運営側が設定する。現在、繁忙期の一番上と二番目、通常期、閑散期の4段階の料金設定を予定している。

問 閑散期に、さらに町民が利用しやすい

答 条例で定める最高額の幅の中で運営側が設定する。現在、繁忙期の一番上と二番目、通常期、閑散期の4段階の料金設定を予定している。

問 閑散期に、さらに町民が利用しやすい

答 国庫補助事業を活用した施設整備で、提出する収支計画

問 町民の憩いの場でもある。町民向け使用料は明文化すべきでは。

答 閑散期価格よりさらに差し引いた町民価格を設定して利用できるよう動いている。

問 ふれあいランド岩泉の使用料は、曜日によって変更するなど臨機応変な価格設定ができるか。

答 事業者と協議で、収支が上振れした場合は地域還元、町民や域内での消費に還元するなど、その収支状況の都度、町と指定管理者とで協議し決めていく。

問 利用料金制で使用料は指定管理者の収入となる。指定管理料は5年間で2500万円程度の予定。年間で500万円程となるが、どんな人が来れば指定管理料は減額になるか。

に明文化することが難しかった。春の繁忙期の動向を見つつ、町民向け料金を確定させ知らせる。

観光 龍泉洞冬まつり入洞者数は 9日間で内外812人集客



次年度に向けイルミネーションの充実を図りたい

問 龍泉洞冬まつり開催期間中の入洞者数は。

答 9日間にわたり夜間に開催した。期間中、16時から19時の時間帯で町民255人、町外から457人の計812人に入洞いただいた。

問 冬の誘客としてイルミネーションに工夫が必要では。

答 個々をつなげるなど充実を図りたい。

問 冬まつりは初めての試みであったが、PRや周知方法の評価と今後の課題は。

答 インスタグラムなどのSNSとウェブ広告を実施。仙台、八戸エリアの20代、30代女性をターゲットにした。来年度以降に向け検討する。

寄付金 返礼品追加の取り組みは ホテル宿泊券など準備中

問 ふるさと納税で謝礼のおもだったものは何か。

答 返礼品の順位でいくと、岩泉ヨーグルトが1位、龍泉洞の化粧水が2位など岩泉ホールディングス（株）の商品。3位はなかほら牧場のバターである。

問 返礼品に宿泊券や観光案内などを追加する取り組みはしていないか。

答 現在、龍泉洞旅行社のキャンプサイトチケットが掲載されている。町内のホテル2つの宿泊券を今準備中である。ふれあいラ

んど岩泉がリニューアルされ宿泊可能となることから、今後追加していきたい。

問 各地域振興協議会で交流人口拡大に向け行っている活動を返礼品とし、岩泉町を売り込む考えはないか。

答 おおかわむら地域振興協議会で行っている砂金堀りを追加できないか今後検討していきたい。

D X 書かない窓口で職員負担は 直ちに軽減にはならない

問 書かない窓口システムの使用料が皆減となった要因は。

答 様式の調整などに時間を要し、3月中旬の稼働予定となつたため。

問 書かない窓口の導入で職員の負担は

軽減されるか。

答 職員の負担軽減が最終目的であるが、開始直後は住民に対する使用の説明が出てくるため新たな負担の発生が危惧される。直ちに、職員の業務負担の軽減にはならないと考えている。

まのすの声

佐々木弘尚さん（岩泉・38歳）
窓口の負担が軽減し便利に
書かない窓口は、チラッと聞いたことがありました。窓口での質問や応答が負担軽減になり、特にお年寄りなど便利になると思います。



まのすの声

松原 真琴さん（おおかわむら地域振興協議会 推進員）
砂金堀り体験 返礼品でPR
大川地区で取り組んでいる砂金堀り体験。ふるさと納税の返礼品に加えてもらえたら、町内外の皆さんへPRにつながると思います。ぜひそうなってほしいです。



一般質問



町の考えを問う



一般質問全文は、町ホームページで公開しています。
スマートフォンははこちらから。

10人の議員が登壇

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問をたずねること。報告や説明を求めることです。
3月定例会では、10人の議員が登壇し、町政課題への提言や質問を行いました。
ここでは、質問と答弁を要約した内容（11ページから15ページ）を登壇順（質問順）にお知らせします。

さかもと のぼる 議員（11ページ） ●再エネの積極的推進を

＊その他の質問
・介護サービスの充実

や え が し り ゆ う す け 議員（11ページ） ●再エネ事業の取り組みは

み た ち か ず ひ こ 議員（12ページ） ●国に大不漁対策の要望を

＊その他の質問
・課の増設 ・薬草への取り組み

み た ち ひ さ し 議員（12ページ） ●関係人口の創出は

さ と う や す み 議員（13ページ） ●通学路の道路整備を

あ い し ゃ た け し 議員（13ページ） ●旧安家小を介護施設へ

は や け や ま か ず ひ で 議員（14ページ） ●買い物応援隊の拡充を

＊その他の質問
・岩泉観光センターのリノベーション ・県道大川松草線整備促進の事業化
・山村留学「岩泉高校いわて留学事業」

は や し ぎ き け ゅ う じ ゅ う 議員（14ページ） ●新電力会社設立に向けては

＊その他の質問
・町内消費購買拡大事業

み た ち や す ま さ 議員（15ページ） ●地域計画の取り組みは

＊その他の質問
・町道整備 ・獣医療体制の整備 ・鳥獣被害対策
・義務教育段階で生じる費用の支援 ・部活動の外部委託 ・岩泉高校への支援
・酪農の展望 ・教育の展開 ・幼児教育

ち ば や す ひ こ 議員（15ページ） ●ワンチームの政策協議は



坂本 昇 議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



問 再エネの積極的推進を

答 リスクを克服し着実に

問 町の再生可能エネルギーのポテンシャルは、約180万世帯分の年間消費量の電力に相当すること。持続可能なまちづくりの創造に大きな素材となる。積極的に推進すべきと考えるがどうか。

町長 再生可能エネルギー事業の本格的な取り組みは、町にとっても壮大なプロジェクトである。さまざまなリスクや困難に直面することも想定されるが、一つ一つ克服しながら、着実な事業の推進を図っていく。

5 岩泉町の再生可能エネルギーの導入に向けた取組

1 持続可能なエネルギーをつくる

再生可能エネルギーのポテンシャルを生かし、環境と調和したエネルギーをつくり出す。また災害時の活用を図ります。

2 CO₂吸収源の確保

美しい緑はCO₂の吸収源として重要な資源でもあります。森林を育て、森林資源を活用します。

3 エネルギーを効率的に利用する

再生可能エネルギーを大切に利用するとともに、化石燃料の使用を減らすため、省エネルギー対策にも取り組みます。

4 町を元気にする・次世代につなぐ

エネルギーの地産地消に取り組み、豊かな自然環境を未来の子どもたちへ繋ぎ「森と水のシンフォニー」がいつまでも響き渡る町を育みます。

再エネで町を元気に・次世代へつなぐ



八重樫龍介 議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



問 再エネ事業の取り組みは

答 効率的かつ持続的な検討

問 バイオマス発電事業は、具体的な計画が示されていない。今後の取り組みは。

町長 生物資源の調達方法など不確実な要素が大きく検討事項が多い。引き続き効率的かつ持続的な再エネ活用に向け検討していく。

問 休耕田や耕作放棄地の活用を視野に入れ、自然エネルギーの「植物発電事業」に先駆的に取り組んでいく考えはないか。

町長 電力供給が困難な場所でも利用可能で、新たな取り組みとして注目している。しかし、発電できる電力量が少ない。休耕田などの活用も視野に入れた調査研究していく。



有芸地区の風力発電の羽根（57.2 m）

問 計画している「地域新電力会社」への町の関わりと今後の計画を示せ。

町長 設立に向け、7年度から準備を進める予定。町の役割を含め、関係者と協議・検討を進めたい。町内で発電された電気は全て購入可能と想定。町民から電力供給元として選んでもらえるよう多様なメニューを研究していく。

17文字のひとりごと

温暖化
町一体で
食い止める



道幅が狭く、すれ違いに支障をきたす箇所が点在

問 通学路の道路整備を
答 県へ要望活動重ねる

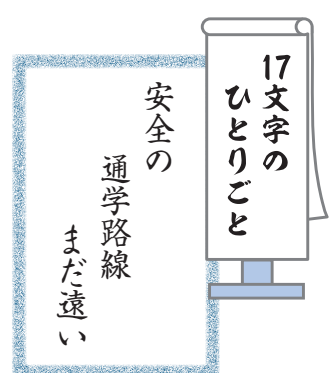
問 大川地区に唯一残っていた釜津田小も岩泉小に統合となる。大きな不安材料は、通学路の安全性である。

個人所有林の伐採許諾を取り付けるなど、より具体的な後方支援を行い県に対し強力に働きかける考えはないか。



佐藤 安美議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



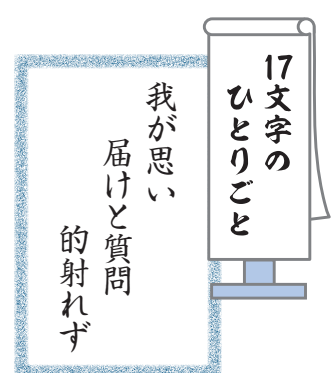
町長 学校統合に向けた道路整備は、町の最重要課題として県への統一要望やあらゆる機会を通じて要望活動を重ねている。

所有者に対する用地交渉や立木伐採の承諾などは、県へのサポートを適時適切に講じてきた。地域の課題把握に努め、各地区の事業説明会や道路同盟会総会へ町も出席し、住民の要望など、町からも事業推進の参考となる情報提供を行っている。今後も児童・生徒が安心して通学できる環境づくりのため、立木伐採など適切な道路環境の確保と整備が円滑に進められるよう、県に対して要望していく。



三田地和彦議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



問 サケの回帰率や青魚の回遊異変、貝類・アワビの大不漁など自然・環境サイクルの異変を感じる。県を通じ国に、早急な対策を要望する考えはないか。

町長 県には「サケ資源の持続化に向けた種卵確保、回帰率向上の

取り組みと効果の検証、効果的な支援の実施」「アワビ、ナマコ種苗放流の予算確保」「漁場環境回復のため磯焼け対策支援」を要望。国に対する働きかけもお願いしている。さらに、町村会を通じて「7年度県予算編成並びに施策に関する要

望」「東日本大震災からの復興に関する要望」。サケやアワビなどの主力魚種の資源回復に取り組み、海洋環境の変化に対応した新たな増養殖技術の開発・導入なども要望している。増加している資源のさらなる有効利用も重ねて要望している。

問 国に大不漁対策の要望を 答 沿岸市町村共同で強力に

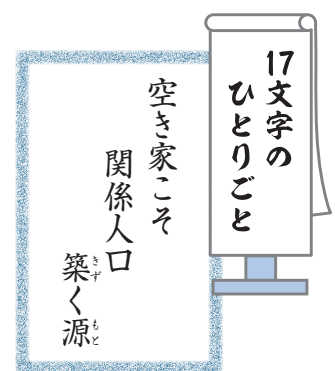


アワビの不漁。漁業者の死活問題



三田地久志議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



達成度は。

問 関係人口の創出は 答 空き家を活用する

問 岩泉町未来づくりプラン後期基本計画の重点プロジェクトのうち、「関係人口の創出・拡大」のための「二地

域の居住の促進」「空き家の活用」「お試し居住プログラム」「大学生のインターンシップ」の取り組み強化の



キャリアデザインプログラムで町に興味を

町長 「本町に関心がある人との交流促進」は、令和元年度から地域おこし協力隊の着任希望者を対象に、2泊3日の町内居住体験を提供している。さらに、県内外の大学生を対象に4泊5日の「キャリアデザインプログラム」を実施。若い世代に本町を深く知っていただくための機会を提供している。

「二地域居住の促進」と「空き家の活用」は、7年度に町内の空き家の実態調査を実施予定。この調査結果を踏まえ、空き家を活用した二地域居住の促進も調査・研究を進めていく。

問 旧安家小を介護施設へ 答 課題あり可能性を検討



デイサービスへの移動時間が課題

問 高齢化が進行する中にある、旧安家小学校を活用した介護施設の必要性を町はどのように考えているか。

冬期間、一人暮らしが困難な人や見守りが必要な人が利用する高齢者生活福祉センターの居住部門は、安家地区の人が半数近く入居している現状もある。デイサービスを提供するためには、介護保険法に基づいた施設・設備を整備しなければならない。大規模かつ

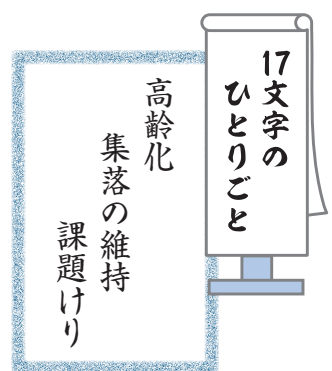
町長 現在、安家地区の人は、岩泉地区のデイサービスを利用しており、移動に時間を要している状況である。

多額の費用が見込まれることや介護事業の現状をみると、利用者数の減少、物価高騰による経費の増大、職員の確保などの課題もある。今後の廃校活用の方策の一つとして、中長期的な視点で、事業者からの情報収集も進めながら、その可能性を検討していきたい。



合砂 丈司議員

一般質問・答弁
全文はこちらから





三田地泰正 議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



17文字の
ひとりごと

未来へと
地域計画
展望し

問 「地域計画」策定後の支援体制の整備や基盤整備事業の推進、新規参入の支援など地域の特性に応じた計画の実現にどう取り組むのか。

町長 地域との意見交換や農業者・農業委員から「地域農業は、現

役の高齢化が進み、耕作されない農地の増加や山林・原野化が加速するのでは」「農地の集積と基盤整備の初期投資に係る自己負担がネックで前に踏み出せない」などの声がある。効率的で生産性が高い農業経営、新たな担い手の確保による農業基盤の継承など、持続

問 地域計画の取り組みは

答 議論重ね実効ある施策に



大きな転換期を迎えている農業

可能な経営体制への転換を図ることが重要。引き続き、農業者や農業委員と議論を重ね、実効ある施策を講じていく。

国、県、JAなどの関係機関における農業構造転換への集中的な対応が重要。今後も、関係機関、団体との連携を強化していく。



スポ少のようにワンチームで、町の未来を切り開く

問 町長 新年度の町政運営や予算概要を丁寧に説明するもの。今後の

町長 国などの財源が紐付いていない事務事業を洗い出し精査。

問 ワンチームでの政策協議は

答 あらゆる可能性を模索する

問 町長 施設方針は超長文である。取捨選択が必要と言っているが、絞る意向はないか。

町長 国などの財源が紐付いていない事務事業を洗い出し精査。

問 ワンチームでの政策協議のあり方は。

町長 団体などの補助金依存度を低減し主体性を高めることが必要。7年度に加速させる。

問 補助金の見直しは。

町長 地方の人口減少は加速化し衰退している。従来の手法やシステムの見直しが必要。一人一人がさまざまな視点で、あらゆる可能性を模索し、その選択肢の中から、新しい考え方、方向性を見定める。議会とさらに議論を重ね、共に知恵を絞り、力を合わせて希望に満ちた本町の未来を切り拓いていきたい。



千葉 泰彦 議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



17文字の
ひとりごと

数よりも
質にこだわられ
まちづくり



林崎 寛次郎 議員

一般質問・答弁
全文はこちらから



17文字の
ひとりごと

見つけたら
町を救えし
サンパワー

問 買い物応援隊の拡充を

答 円滑な実施を協議する

問 交通弱者の足の一つである「コミタク（※）」は町中心部まで運行できないか。

町長 町では、町民バ

スやデマンドタクシー、各地域振興協議会の二次交通などを支援し町民の足を確保。大川地域で実施するコミタクの運行区間の延



買物支援の充実を(町社協：おたすけ買い物応援隊)

問 町社協が行う買い物支援「おたすけ買い物応援隊」の運行回数や継続運行など内容が充実実施されるように町も必要に応じて支援すべきではないか。

町長 町の将来を見据えたとき、この事業へのニーズが高まることが想定される。次年度の事業実施にあたっては、社会福祉協議会との連携を密に、事業内容の検証や課題の把握を行い、円滑な事業実施のスキームを検討・協議していく。

伸は、即時の実現は難しい。引き続き、関係事業者と意見交換を重ね、あらゆる方面から調査研究をしていく。

問 新電力会社設立に向けては

答 検討委員会などを立ち上げ

問 町では、新電力会社の設立を想定している。発電事業者との協議、協賛する町内事業者への説明、理解を深めること。何より町民の理解が必要。設立の目的、町の関与も明確にし。定款にしっかりと書き込むことが大事だと思ふ。

再生可能エネルギーの地消地産で、足腰の強い地域経済の構築、持続可能な町づくりへとつながると考える。町長の所見を伺う。

町長 この取り組みを前に進めるにあたり、町民の十分な理解を得ることが非常に重要。7年度はさまざまな機会を捉え、町民をはじめ町議会や事業者に対して、丁寧に分かりやすい説明を行い、取り組みの意義や効果を広く共有していきたい。地域新電力の設立に向けては、検討委員会などを立ち上げ、具体的な方針や計画を策定しながら取り組んでいきたい。



再エネの地消地産で足腰の強い地域経済へ

(※) おおかわむら地域振興協議会が運行するコミュニティタクシーの略称。



取材協力ありがとうございます

いわいずみ議会だより第206号（6年4月12日発行）が、第39回（令和6年度）町村議会広報全国コンクールで第3位となる優秀賞を受賞しました。

が主催する同コンクールには全国から311点が応募。この中から選ばれたものです。令和3年度には第1位、4、5年度は第2位など6年連続の受賞になります。

議会だよりが全国3位



全国町村議会
議長会HP

地域の振興発展に寄与

全国町村議長会と県町村議会議長会は、地域の振興発展に寄与した町村議会議員を自治功労者として表彰しました。

◆全国表彰（議員在職15年以上）

坂本 昇 議員

◆県表彰（議員在職11年以上）

八重樫 龍 介 議員

林 崎 竟次郎 議員

三田地 久志 議員

本町議会からは、長年の功績が認められ、4人（全国1人、県3人）の議員が受賞。表彰状は、2月27日の本

会議で菊地弘巳議長から手渡されました。受賞者は、次の通りです。



自治功労賞と議会だより優秀賞受賞を記念して



住み続けたい町もっと知りたい

工藤伸哉さん
（岩泉・38歳）

地域おこし協力隊で移住し住み続けたい町のことをもっと知りたいと思い傍聴。地域課題を知ることができました。議会の様子を中継や動画で配信すると、情報の取り方としておもしろいと思います。着任して1年、場所は覚えたのでこれからは人をもっと知りたいし、移住希望者と地域をつないでいきたいです。

3月定例会の傍聴者は延べ14人でした。傍聴をされた人から感想や議会・町に対する声を聴きました。

傍聴者の声

質問と答弁に引き込まれた

大下勝子さん
（岩泉・81歳）

初めての傍聴でした。質問・答弁ともに聞きごたえがあり、引き込まれました。質問では、現状を直視し、吟味されている内容。農業、教育、生活全般にわたっていて、熱意が伝わる議会でした。町民・行政ともに手をつなぎ、がんばろう。

議員は何してんのや

議員や議会は何をしているの？という声を聞きます。ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。（全日程はQRコードで）



議会の動き

1月

- 12日 岩泉町二十歳のつどい（町内）
- 16日 第1回臨時会（議会議事堂）
- 19日 町消防団消防出初式（町内）
- 27日 宮古地区広域市町村議会連携会議議員研修会・交流会（町内）

2月

- 6日 第1回定例会（議会議事堂）
- 7日 東部町村議長会議員研修会・議員交流会（大槌町）
- 25日 条例補正予算等審査特別委員会（役場：26日まで）
- 26日 本会議（議会議事堂）
- 27日 一般質問（議会議事堂：28日まで）

3月

- 4日 新年度予算審査特別委員会（役場：7日まで）
- 7日 本会議（議会議事堂）
- 21日 釜津田小学校閉校式（町内）
- 25日 第2回臨時会（議会議事堂）



代表の千葉泰彦議員から伊藤力也大船渡市議会議長（中央）、今野善信副議長（左）へ

3月26日、町議会議員一同は、2月26日に大船渡市で発生した大規模な林野火災により甚大な被害を受けた被災者への支援として災害見舞金20万円を送りました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念しております。

大船渡市林野火災へ見舞金

議会を傍聴しませんか

初議会

4月27日は、町議会議員選挙が予定されています。

議長や副議長のほか、各常任委員会と運営委員会の委員の選任。正・副委員長の互選など新しい議会の体制を決めるため「初議会」を開きます。

初議会は、5月8日（木）の予定です。

次の定例会は、

- 6月12日（木） 本会議・一般質問
- 13日（金） 一般質問
- 17日（火） 条例補正予算審査・本会議の予定です。

※都合により変更となる場合があります。

お詫びと訂正

いわいずみ議会だより第209号（令和7年1月16日号）3ページで、崎尾緒心さんのお名前がなにごとに誤りがありました。お詫びして訂正します。

誤：つむぎさん 正：つぐみさん



編集後記

▽本議会の議会だよりは、令和3年から4年間で、全国で4回の入賞。皆さまのご協力に感謝します▽私、新人議員は、編集委員会を通じて、町の全体観を捉え、政策を深く理解する機会です。毎号の特集も、編集委員が知恵を出し合い、東奔西走。町の課題に向き合いました▽他の常任委員会活動も特集すべきところ、叶わず心残りです▽定員と報酬も改定で、議会活動の充実を期します。4年間ありがとうございました。

広報広聴常任委員長

千葉泰彦

広報広聴常任委員会

委員長		副委員長		委員	
千葉	泰彦	佐藤	安美	八重樫	龍介
坂本	昇	和英	昌典	昌典	昌典

広報

読みやすさへの挑戦

新たな挑戦 シリーズ公共交通

令和4年5月、議長の変更に伴い広報広聴常任委員会の構成も一部変更。千葉泰彦委員長、坂本昇委員が選任され、新たな体制となりました。

新体制で早速に挑戦した議会だよりの新企画「シリーズ公共交通を考える」。少子高齢化が進む中で、暮らしに必須である公共交通をピックアップ。全4回の構成で、最終の政策提言を目指し、特集に取り組みました。

1回目は、現状・課題を知るた

めに町の皆さんの声を聴きました。2回目は、町の公共交通の変遷をたどり、3回目は、先進事例を視察調査。4回目で、総合的に整理しました。

通常の議会だよりの編集作業に加え、所管事務調査を実施するなど、1年間を通じた調査・取り組みで、町の課題を皆さんと共有することができました。

高校生から学び 青字の紙面へ

5年7月、目のバリアフリーに配慮した、だれもが読みやすい議

会だよりを目指し、研修会を実施。講師に岩泉高校の有原光昭さん（当時3年生）を招き、色覚多様性への知識を深めました。

岩泉高校が総合学習の一貫で取り組んでいる「K I Z U K Iプロジェクト」。有原さんは、研究テーマを「岩泉町民の暮らしに目のバリアフリーを」として探究。

議会だよりは、白地に黒色と赤青緑などの有彩色の2色刷りでした。多くの色弱は赤・緑が区別しにくく、青色は唯一同じ色を見ることができると提言いただき、以降、青色を使用しています。



皆さんに親しまれる議会だよりを目指して



いわいすみ
議会だより
編集方針

町の特集 課題を再認識



広報広聴常任委員長
千葉 泰彦

議会だよりは、町政課題から特集を組みました。取材編集も苦労しましたが、どの課題を特集するか選ぶこと自体が難しく、町の状況を再認識しました。

議員と語る会は、コロナ禍で十分開催できず残念でした。

取材では、町民の皆さまに多大なご協力いただき、本当にありがとうございました。

議会広報コンクール

年度	全国	岩手県
3	最優秀賞(第1位)	—
4	優秀賞(第2位)	特選(第1位)
5	優秀賞(第2位)	特選(第1位)
6	優秀賞(第3位)	—

行政視察の受け入れ

議会だよりが全国コンクールで最優秀賞を受賞後、行政視察が多く訪れました。

4年間の受け入れ件数
(議会だより関連)

18市町村

議員報酬引き上げへ

基本条例 推進委員会

岩泉町議会 議員報酬(月額)

議長	現在	279,000 円
	改正後	300,000 円
副議長	現在	226,000 円
	改正後	250,000 円
常任委員長、議会議長(新設)	現在	210,000 円
	改正後	240,000 円
議員	現在	210,000 円
	改正後	230,000 円



議員と語る会で報酬増額の方向性を説明し意見交換

議員のなり手不足解消

議会基本条例推進委員会は、議会改革の一環として、令和4年6月から議員定数と報酬の見直しの検討を開始しました。

全国的にも深刻化する議員のなり手不足。人口減少や少子高齢化が進む中、多様化する町の課題に、町民の広い意見を集約し、地域社会の在り方を議論するため議員の多様性が求められます。

なり手不足の解消、女性や若者が議員になれる環境を整えるため、議員報酬を増額する方向性を決定。町の皆さんへアンケートを実施し、8割の支持を受け、6年5月1日、中居町長に報酬と定数に関する提言書を提出しました。

町特別職報酬等審議会からの町議会議員の報酬月額引き上げは妥当との答申を受け、6月11日

に条例改正案を提出。全会一致で可決し、27年ぶりに議員報酬が引き上げになりました。

議員定数のアンケート結果は、現状維持と定数削減が同数。議員間で協議を重ね、人口減少などを踏まえ1人減の13人とすることを決定し、条例改正案を議員発議で提出、可決しました。

検証し議会活性化へ

本町議会では、効率的で分かりやすい議会運営と町民の意思を反映した「開かれた議会」を目指し議会改革に取り組んできました。

目的が達成されているか確認し、必要に応じた見直しを行い次年度の議会活性化につなげるため、毎年検証を行っています。

さらに開かれた議会を目指し、今後も議会改革に取り組みます。

4年間で行った一般質問

定例会	年4回×4年	全 16回
一般質問を行った人数		延べ115人 (1回の平均 7.1人)

4年間の議員と語る会

部門別 (高校生、子育て世代、三セクなど)	5回 延べ52人
6地区	1回 延べ158人

4年間で出された請願

合計 7件 (採択6件・不採択1件)
*改善に至った主なもの スポーツ少年団やスポーツクラブの活動に参加する児童の送迎にかかる費用の一部支援

総務

子育て支援の充実・推進

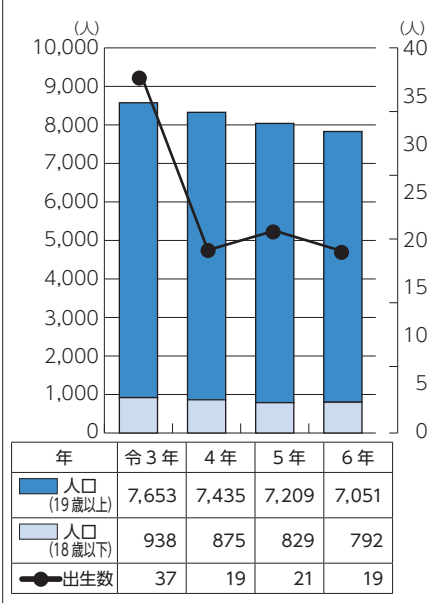
- 総務常任委員会では、
- ◇定住化対策
 - ◇地域活性化
 - ◇児童・高齢者福祉対策、医療の充実
 - ◇文化・教育振興
 - ◇防災対策 を調査

出産祝い金増額へ

総務常任委員会では、少子化が急激に進む危機的状況下、特に「子育て支援」に力を入れて調査・活動をしてきました。

突出した少子化対策を行い、子育て世代から選ばれる町となるよう、20年来変更されていなかった「いわいずみっこ祝い金（出産祝い金）の増額」を町へ要望。これまで第1子5万円、第2子7万円、第3子以降10万円が、令和5年度から出生児1人につき一律10万円に増額となりました。

グラフ-1 人口・出生数の推移



給食・医療費・保育料の無償化を実現

子育て世代との語る会

令和5年12月、子育て世代の皆さんと語る会を開催。必要な子育て支援は何か、聴きました。

子どもの医療関係やスポーツ少年団・部活動に対する補助、少子化による学校統合を見据えた教育。さらに、移住・定住者など町外から来る人への支援、町内にいる人も大切にしてほしいといった貴重な意見をいただきました。

子育て支援3つの無償化

令和5年7月から町立認定こども園の保育料が、6年度からは小中学校児童生徒の給食費が、6年8月（診療分）から子どもと妊産婦の医療費が、無償になりました。この3つの無償化により、町全体で子育てを支える体制づくりがさらに推進されました。

5年7月から在宅で子育てを行う世帯へ「子育て在宅育児支援金」も支給。現在、町では49の子育て支援を行っています。

少子化対策の一つとして、子育て支援の充実を推進してきましたが、雇用、所得、結婚など総合的に考えていく必要があります。継続して調査・研究していきます。



一定の成果も
やるべきことは山積



総務常任委員長
畠山 昌典

持続可能な町を目指し、先進地視察や関係者との意見交換を行うなど、これまで活動してきました。町への提言や要望、一般質問などを通して一定の成果はあげられましたが、まだまだやるべきことは山積しています。さらに計画性を持った実効的な活動を続けていきます。

農林水産業の持続的発展へ

産業

産業常任委員会では、

- ◇農林水産業の振興策
- ◇観光業・商工業の振興策
- ◇町内の道路整備
- ◇ふれあいランド岩泉の再整備
- ◇龍泉洞園地の再整備
- ◇三セク運営支援策 を調査

学校給食の町産使用率(重量ベース)

年度	総重量(kg)	町内産重量(kg)	町内産重量率
3	72,173	31,511	43.7%
4	66,041	31,277	47.4%
5	64,063	36,864	57.5%
6	63,425	34,071	53.7%

R5.1～JAの町内産米購入で増



産業常任委員長
三田地 久志

地域再生の方法
考え行動した4年間

諸課題の解決に向けて議論を進めるうちに、「人口減少」にぶつかります。

「課題はビジネスによる手法でしか解決できない」と思っているのですが、地域の再生・復活も同じであり、そのためにはどのような方法があるのか考え行動した4年間でした。

地消地産条例を制定

産業常任委員会は、人口減少、少子高齢化による農林水産業の担い手不足、耕作放棄地の増加、産業の衰退などの課題へ取り組んできました。

農林水産業の持続的な発展を促し、豊かな町民生活の実現を目指し、令和4年3月15日に「岩泉町地消地産の推進に関する条例」制定。町、生産者、生活者、事業者の役割を明文化しました。豊かな自然と豊富な地元食材に恵まれる本町で「食」を通して町内の消費者と生産者の架け橋となるべく「地消地産」の推進を図ります。

5年9月、農林水産業の振興策における地消地産の意見交換を担当課と行い、未来づくりプラン後期基本計画に明記され、取り組まれています。

三セクや商工会と意見交換

コロナ禍で大打撃を受けた商業や観光業。その支援策を要望や一般質問などで議論を重ねました。

産業常任委員会は、アフターコロナを見据えた観光客誘客の調査

のため岩泉商工会と意見交換。6割を超える会員にコロナの影響があったこと、町の支援により廃業がなかったことを確認しました。

5年1月、第三セクター職員の皆さんと語る会を開催。各社からは、施設の老朽化による改修・修繕の課題を聞き取りました。

語る会の意見に対応

令和6年1月から2月に実施した6地区での議員と語る会。農業振興、道路整備、有害鳥獣に関する意見が多く出されました。

意見を受け産業常任委員会では、6年5月23日、安家地区の牧道(※)の復旧状態を現地調査。対応済みまたは、今後の施工となることを確認しました。

6年7月17日には、要望のあったナラ枯れの支障木、町道の管理・観光地の整備を現況調査。対応・改善が必要であることを確認し担当課へ申し入れました。

台風や大雨により被害のあった道路や龍泉洞の調査では、度重なる災害で何度も被害が起ることから改良復旧の必要性を認識。今後、調査を継続していきます。



地域で消費するものを地域でつくり、地域内経済循環へ

議会が暮らしに与えた影響は ～4年間の軌跡～



岩泉町議会議員は、本年4月30日で任期満了を迎えます。少子高齢化、人口減少が進み、コロナパンデミックに物価高が追い打ちをかけ、苦しい生活が続きます。私たち議会は、行政のチェック機能、政策提言など議会活動を通じて、町民の暮らしにどう影響を与え、そして今後どうあるべきか。令和3年5月の就任からこれまでの4年間の軌跡を振り返ります。

コロナ禍 議会構成を一部変更

歴史に残る世界的な影響をもたらした「新型コロナウイルス」。改選初年度の3年度は、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の発出で外出自粛や行動制限を余儀なくされました。町では宿泊事業者や飲食店への緊急対策支援やコロナワクチンの集団接種など予防体制の整備に奮闘。感染の拡大と縮小を繰り返す状況下で、議員と語る会などは中止せざるを得ず、議会の運営や活動も制限され、これまでと大きく変わりました。

4年5月18日、臨時会が開かれ、逝去した野館議長を追悼。新たな議長選挙を行いました。選挙の結果、菊地弘巳議長、八重樫龍介副議長に決定。これに伴い、総務常任委員長と広報広聴常任委員長が新たに選任されるなど、議会構成を一部変更しました。

5年ぶり“議員と語る会”開催

5年5月8日、コロナが5類に移行となりました。

6年1月、町内6地区で5年ぶ

りに「議員と語る会」を開催。いただいた提言に対し、必要に応じ常任委員会で現地調査を行いました。

議員のなり手不足の解消、若者や女性などの参画による議会の活性化を目指し、検討を重ねてきた議員報酬と定数の見直し。6年6月定例会で、報酬の増額改定と定数の1人減を決定しました。

7年3月、4年間の締めくくりとなる最後の定例会。町の果たす役割が大きくなる中、2元代表制の一翼を担う議会の責務を再認識し、新たな議会へ。

13人で町の課題へ議論重ねた

議長に就任以来、責任の重さを実感しながら、公正かつ円滑な議会運営に努めてきました。議員13人で、町の皆さまの声を背に、人口減少や災害対策など町の課題に有効な政策を進めるべく、議論を重ねました。議会の活性化を目指し、次期改選からは議員報酬が増額されます。これまで以上に積極的に議会改革に努め、議員の責務を果たしていきます。



議長 菊地 弘巳

4年間の主な出来事

3年	
5月	初議会 新体制スタート
8月	コロナ岩手緊急事態宣言
9月	タブレットの使用開始
4年	
2月	議会だより 全国一位
5月	議会体制変更 議長ほか
5年	
3月	未来づくりプラン後期基本計画策定
5月	新型コロナ5類移行
8月	小本観測史上最大の大雨
6年	
1月	6地区で議員と語る会
6月	議員報酬の増額改定、議員定数1減（改選後から）

5つの重点 取組と検証

人口減少が進む中で、持続可能な町にするために何が必要なのか。3つの常任委員会の調査をより効率的・効果的かつ実効的に進めるよう、本年度は5つの重点課題を設定し、調査の経過や取り組みをお伝えしてきました。

目指していた改善策・対応策の結論づけには至りませんでした。常任委員会活動の重要性を再認識。その機能を十分に発揮できるよう、政策サイクルの実現へつなげていきます。

1 教育



6年生と意見交換

子どもたちの
提案実現へ

【主な取り組み】

- ・教育委員会事務局からの聞き取りにより、教育の現状・課題を調査
- ・岩泉小学校6年生の「子ども議会～岩泉町の未来を考える～」で意見交換
- ・岩泉高校生から岩泉小児童へのジオラマ防災教室を参観

【成果】

- ・子ども議会で提案された提案の1つが、町内会などの協力を得て実現

【課題】

- ・教育に対する支援は手厚く行っているが、高校卒業時など若年層の転出超過

2 町民の 意欲向上

【主な取り組み】

- ・町商工会青年部の皆さんと意見交換
- ・山形県西川町の関係人口の創出施策を視察研修
- ・清流と山菜の里はその村（山形県尾花沢市）の住民主体の地域づくりを視察研修



西川町のつなぐ施策を調査

【課題】

- ・少子高齢化による人口減少
- ・労働力不足、経済縮小

4 町民の 所得向上

【主な取り組み】

- ・安家地区の牧道の復旧状態を現地調査
- ・「観光＋農業」の拠点、道の駅川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）視察研修

【課題】

- ・労働生産性の向上（IT活用や人材の育成など）
- ・可処分所得の向上



道の駅日本一を調査

3 雇用の 創出

議員と語る会で出された意見の対応を優先したため、「雇用の創出」に関する調査はできませんでした。

継続的かつ安定した雇用を創出することで、定住化の促進や地域経済の活性化が図られることから、今後の課題の一つとして検討していきます。

5 身近な議会

【主な取り組み】

- ・岩泉地域振興協議会主催の「岩泉の未来を語る会」へ参加
- ・議員と語る会の要望事項へ対応（ナラ枯れ・町道・観光地の現況調査）
- ・台風5号の被害箇所の現況調査（町道・県道・龍泉洞）

【課題】

- ・町の皆さんの議会への興味・関心を高める活動
- ・議員のなり手不足



本号はダブル表紙です。
「3月定例会のあらまし」は、
裏表紙からご覧ください。

特集 議会が暮らしに与えた影響は ～4年間の軌跡～

